

第 17 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成31年3月25日（月）

開催時間 午前 9 時 00 分から午前 10 時 45 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 市川 満
教育長職務代理者 野田 清紀
委員 三塚 憲二、佐藤 喜美子

出席職員 教 育 次 長 小島 良一
教 育 監 奥田 正治
教 育 監 青柳 達也
理 事 斉木 邦彦
学力向上対策監 佐野 修
次長（総務課長） 塩野 開
福利給与課長 諏訪 桂一
学校施設課長 後藤 宏
義務教育課長 嶋崎 修
高校教育課長 廣瀬 浩次
高校改革・特別支援教育課長 染谷 光一
社会教育課長 保坂 哲也
スポーツ健康課長 前島 斉
学術文化財課長 百瀬 友輝
総務課総括課長補佐 古屋 登士匡
政策企画監（総務課課長補佐） 武井 俊人
総務課課長補佐 若月 衛
総務課課長補佐 望月 勝一

福 利 給 与 課 課長補佐 浅川 弘文
主 査 清原 昭典
義 務 教 育 課 主 事 大谷 将也
局 付 主 幹 樋田 洋樹
高校改革・特別支援教育課 課長補佐 小林 俊一郎
主 幹 篠原 健
主 査 山田 幸雄

傍聴人 1 名

報道 0 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

教育長から武者委員、加藤委員が都合により会議を欠席する旨の届け出があったとの報告があった。

議案第49号、議案第50号、議案第51号、議案第54号、報告事項（13）については、人事及び個人情報に関することであるため非公開としたい旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

会議結果

- 議 案
第 49 号 教育委員会所属長等の人事について
（ 非公開 ）
〔説明〕 総務課

【原案どおり決定】

第 50 号 山梨県教育委員会事務局及び山梨県教育委員会の所管に属する教育機関の職員の職
の設置に関する規則等の一部を改正する規則

(非公開)

[説明] 総務課

【原案どおり決定】

第 51 号 山梨県教育委員会公印規程の一部を改正する告示

(非公開)

[説明] 総務課

【原案どおり決定】

第 52 号 非常勤の教育職員の手当支給に関する規程の一部を改正する訓令

[説明] 福利給与課

野田委員 通信教育の添削指導って、どの程度のことをやるのか。

諏訪課長 B4の紙で4枚程度が一綴り一通になっている。その一通が370円で、添削指導する。

野田委員 添削というと赤ペンが入ってくるのか。

諏訪課長 そういうイメージでとらえている。

浅川課長補佐 まるばつだけではなく、必ず答案になぜ違うのか、とか、こう考えた方がいいよ、とか、入って返ってくる。

三塚委員 それは、大事なことだ。

【原案どおり決定】

第 53 号 山梨県教育職員免許に関する規則の一部を改正する規則

[説明] 義務教育課

野田委員 一つの科目の名称をわける意味があるのか。

嶋崎課長 今まで、教科に漠然と別れていたものが、目的や内容を吟味するといったことが主旨になっている。

佐藤委員 学校現場に行って、より実践的に活躍指導できる教員の養成といった主旨が強くなったように思う。

【原案どおり決定】

- 第 54 号 職員の処分について
(非公開)
〔説明〕 高校教育課

【原案どおり決定】

- 2 報告事項
(13) 県立学校事務長等の人事について
(非公開)
〔説明〕 総務課

【了知】

- 3 その他報告
(33) 高校改革アンケート調査結果の概要について
〔説明〕 高校改革・特別支援教育課

三塚委員 アンケートの結果、個々のことはわかったんですけども、最終的に、総括的なコメント、こうだからこういう方向性が必要だとか、ここは問題があるといった総括みたいなものがないがなぜか。

染谷課長 入試制度などの改善に使ったり、個別のものは庁内検討委員会などでデータを活用するといった方向性にはなっている。

三塚委員 おおがかりなアンケートであり、教育委員会としては、これをもとに今後の方向性を考えて行かなければいけないと思うが、アンケートの結果の大筋みたいなまとめは当然つけるべきだと思っている。非常に不親切なアンケート調査で、個々のところ見てください、という話になってしまう。結果としてこういう結果で、こういったところに問題がありますと、少なくともそのくらのペーパーで総括みたいなものをつけてしかるべきだと思うが。

染谷課長 今、高等学校審議会で、審議している最中であり、そこには当然フィードバックする。また、入試も、毎年度毎年度、改善を重ねており、そこにもこのアンケート調査結果は出す予定。調査結果の総括コメントについては、検討する。

三塚委員 前向きだと考えるので、ぜひ検討していただきたい。

- 野田委員 私も同意見。これだったら、ただ結果がこうだったというだけ。やっぱり最終的にはまとめとしてやるべきところだと思う。
質問が2点、理由がのっているが、全県一学区制にどちらともいえない、良くないなどの評価が23%前後、その理由がわかるかどうか。それから先ほど、進学状況を知りたいとあったが、学校の進学状況がホームページの中でデータとして出ているかどうか。
- 染谷課長 全県一学区制については、この調査では理由は聞いていないが、一般的に、甲府学区に甲府の人があまり行けないといったことは聞いている。
- 三塚委員 そういう理由なのか。
- 染谷課長 甲府に住んでいるけど、甲府の学校に行けない、という理由はよく聞く。
- 野田委員 それは大学だって同じ。東京に住んでれば、みんな東大に入れるかっていう話。
- 染谷課長 他には、受験競争、前に比べて進んでいるのではないか、ということも言われている。
- 野田委員 僕は受験戦争は必要悪だと思っている。そのくらいの競争あってもいい。
- 染谷課長 一般的にそういうことが言われている。
- 山田主査 進学の情報について、各高校のホームページに進学先具体的に、今年の入学者はどことどことどこということは出ている。学校ごとに違うが、過去3年の累積、過去5年の累積などがのっている。
- 染谷課長 そこら辺が知られていないこともある。学校選びの参考として、一番何を参考としたかという質問があるが、オープンスクールとか、学校説明会が一番多かったのも、そういうところで、しっかり周知をしていきたいと思っている。
- 野田委員 オープンスクールはいい制度だと思うが、たまたま行けないとか、学校に入れたら行くけど遠くだから行きづらい、ということもある。やはりその部分は、ホームページである程度統一した方がわかりやすいじゃないかと思う。たぶん、中学生では、将来がぼやっとして夢みたいな感じの人の人が多いと思うから、その先その先って見えるようにしてあげた方が親切だと思う。
- 染谷課長 この結果は、学校にも、フィードバックする。学校で、どういう機会が一番露出していくのがいいのか検討していただく必要があると思う。
- 三塚委員 各学校のオープンスクールは何回ぐらいやっているのか。
- 染谷課長 学校で様々だと思うが、2～3回はしている。
- 三塚委員 回数は学校マターなのか。教育委員会で3回やりなさいとか、そういう取り決めはまったくなく、学校長の権限なのか。
- 染谷課長 そうです。

- 三塚委員 県立の高校であれば、例えば教育委員会で年3回などと、日にちは学校行事もあるから、校長マターで決めればいいが、回数を決めてあげた方が公平感があるのではないか、と考えるが、いかがか。
- 染谷課長 おおむね3回くらいはやっているという認識はあるが、検討させていただければと思う。
- 山田主査 現状では、各地域ごとに、近隣の高校と調整しながら日程が重ならないようにしている。
- 三塚委員 重なってしまったら意味ない。
- 山田主査 なるべく早い段階で調整していただき、5月くらいには、ホームページで早めに周知している。
- 三塚委員 日程調整はどこでやるのか。
- 山田主査 各高校間。近いところの高校間でやっている。
- 三塚委員 やはり、それだったら、こっちの方で、調整も回数も含めて、一つのところでやるのがいいんじゃないかと思うが、考えていただきたい。
- 染谷課長 校長会等で相談させていただく。
- 小林課長補佐 各学校では、外部の施設を使い説明会を行っているところ、実際学校に生徒を呼びオープンスクールという形で行っているところ、大体2つの形式で行っている。
- 三塚委員 形式に関しては、どちらでもかまわない、そういうことこそ特色を出すのだから学校マターです。でも、開催方法は、どこかで統一した方がいいんじゃないかと思う。
- 佐藤委員 今、ペーパーテストで点が取れる生徒には、かなりの選択肢、幅が広がっていると思うが、ペーパーテストがあまりとれない生徒達のために前期入試で、高校側でほしい生徒ということで学力調査をするが、学力調査に、中学校で一生懸命取り組んだ中身、例えば総合的な学習の時間等で地域のことを一生懸命勉強し、卒レポみたいな形になったものを高校側の評価の中に入れてもらえると思う。学びの意欲ということが一番言われていて、勉強がわからなくて学校がいやになってしまう、という子がいたり、その先に、自分のやりたいことや極めたいことを見いだせるような、そういう流れが作られると良いと思う。学力のレベルで高校を選んでいるので、ここに行ったらこういうことが学べて、その先、こういう自分のやりたい仕事につながるというような、そういう脈絡があると、単にペーパーテストの点数だけでなく、がんばれる子達の頭が持ち上がるような、そういう高校改革の方向をぜひ考えてみていただけたら。
- 染谷課長 今でも、前期募集は、学校によって様々だが、部活動、スポーツ文化活動、生徒会活動、ボランティア活動などの実績を見るところもある。学校の特色を出すというところで、基準が変わってくると思うが、現在も学力だけではなくて、そういった生徒をほしいという学校もある。

- 市川教育長 前期募集ということに限らず、ということだったか。
- 佐藤委員 はい。
- 市川教育長 高校改革をするにあたって、どういう勉強ができてそのあとどうなるかについて、子ども達に伝わったり、意欲を持たせるような仕組みづくりができないかというようなことか。
- 佐藤委員 はい。今も、高校側では、学校訪問や高校紹介、オープンキャンパスなど、いろいろ工夫していただいているが、どうしても底辺の子ども達が頭を持ち上げてくれないというところに何か流れができるのと良いと。スポーツで活躍できる子は、どちらかというといわばいい子達で、もうちょっと沈んでいる子達をどうしたら本気にさせられるのか、ということ。高校も、総合の時間とかすごく素晴らしいことをやっているようなので、そういう流れにはまっっていくように。大変だと思うが、課題設定とか課題追求とか、自分なりのまとめを持って、そういった学びが高校教育につながると良いと思う。
- 野田委員 その子だっていつ変わるかわからない。だから視野を広げてあげるだとか、モチベーションをあげてあげるような何かを。
- 三塚委員 引き上げてあげないとね。
- 野田委員 もう一つ気になるのが、在籍している高校に、不満、どちらかといえば不満である、と回答した人、生徒も保護者も27%。27%が校風や教育方針があっていないと思っている。そういう人がこれだけ多くいるということが気になる。その前に学校のことがよくわかっていないのではないか、という気がする。オープンスクールやホームページ、また中学校段階で、学校の先生がこの高校はこういう特色があるよと言っても理解できてなかったから、こういう結果になったと思うが、その辺の改革はどんなふうにするんですか。
- 染谷課長 在籍している高校の満足度という質問があり、その回答が、不満であるが4%、どちらかという不満であるが9%であり、その理由の内訳が29ページになるわけだが、やはり、校風や教育方針があっていないというのは、最初によく理解していない可能性があると思うので、そこら辺はやはり周知をしっかりする必要はある。
- 野田委員 原因としてすごく多いので、そここのところは何ともしないといけない。大切なのは子どもの方であって、子どもの1割以上いるってことになる、やっぱりその辺の不満を、子どもにもっと分からせてあげる、ことが必要なのかなと思いますけど。
- 市川教育長 先ほどの指摘についてだが、このアンケート自体が、制度そのものを聞くものと、もっと具体的な話を聞くものとあるので、レベルがまちまちになっている部分がある。制度そのもの、全県一学区がどうかとかについては、ここだけで決められるものではなく、情報提供ということであれば、すぐできるということもあるので、そのあたりは、場合によって、この案件は高校審議会へかけてしっかり議論していただく、これについてはまだ努力が足りない、工夫すべき余地があるので学校に流していく、などと、ある程度区分けして、整理をしておいた方がいいのかもしれない。

野田委員 方針と処理。

三塚委員 少なくともまとめはつけるべき。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上